

〔3 章〕
今後の社会展望
と課題

〔4 章〕

政策体系と行政経営

〔2 章〕

目指す姿

〔5 章〕
地域づくりの
基本方向

時代潮流

県民の
実感

本県における課題

本県の強み（ポテンシャル）

- 人口減少
 - ・ 少子高齢化の進行により人口減少が拡大傾向、コロナ禍を経て東京一極集中が再加速
- デジタル技術の進展
 - ・ 生成AIやビックデータ解析等の革新的な技術が急速に進展

- 地球規模での気候変動
 - ・ 温室効果ガス増加の影響により、異常気象が頻発し自然災害が増加
- 国際情勢の不安定化
 - ・ ウクライナや中東情勢等の影響により、社会情勢の先行きが不透明

- 全国屈指のものづくり県
- 新たな地域資源の活用
- 温暖な気候が育む豊富な食材
- 健康寿命上位の「健康長寿県」
- 豊かな自然環境
- 陸・海・空の交通ネットワーク

- 産業構造の変革
- 少子高齢化の進行
- グリーンシフトの推進
- 全ての県民が活躍する社会の構築
- 交流の拡大
- 激甚化する自然災害

〔2 章〕
県政運営の
基本理念

県政運営の「明確な判断軸」をもちながら、その「判断軸」に照らして、意識・行動を見直し、環境の変化に柔軟かつ迅速に対応できる組織への変革（ローカル・ガバメント・トランスフォーメーション）

経営の視点

- ① 将来世代に対して責任を負う
- ② 最少の経費で最大の効果を挙げる
- ③ 新しいことへの挑戦
- ④ スピード感を持った対応
- ⑤ 「人」を活かす

I 未来を創る力

I－1：産業

（例）スタートアップ支援、企業誘致の強化、デジタル人材の確保・育成
農林水産業におけるデジタル技術の活用・・・など

I－2：環境・エネルギー

（例）再生可能エネルギーの導入促進、脱炭素経営の推進
食品ロス対策の推進、リニアの推進と環境保全の両立・・・など

I－3：観光・交流

（例）観光産業の振興、地域外交の推進、移住・定住の促進、
関係人口の創出・拡大、陸・海・空の交通ネットワークの充実・・・など



II 豊かな暮らし

II－1：こども・教育

（例）妊娠・出産期から子育て期までの母子への支援、ヤングケアラー支援
探究学習等を通じた主体的な学びの推進、特別支援教育の充実・・・など

II－2：健康福祉

（例）医療人材の確保・育成、地域包括ケアシステムの深化
健康寿命の延伸、介護・福祉人材の確保・・・など

II－3：暮らし・文化

（例）多文化共生社会の形成、働きやすい職場環境づくり、スポーツの振興
文化芸術の振興、ジェンダー平等などの環境づくり・・・など



III 県民の安心

III－1：防災・安全

（例）大規模地震対策、風水害・土砂災害対策、感染症対策、防犯まちづくりの推進、交通事故防止対策・・・など

行政経営（例）県債管理の最適化、資産経営、県庁DXの推進、官民連携の推進・・・など

ウェルビーイングの視点

- ・ 県民一人ひとりの幸福実感を重視する「ウェルビーイングの視点」を県政運営全体に共通する考えとして取り入れる
- ・ 行政だけでなく県民、企業、団体等がオール静岡で幸福度日本一を目指す

〔Well-being〕

肉体的、精神的、社会的にすべてが満たされた状態

目指す姿の実現に向けた重点取組

「目指す姿」実現を加速する取組を重点的に展開

幸福度日本一の静岡県

今後記載

- 県内を自然的・社会的条件から一体性を有する 4 つの地域に区分し、地域ごとの特色やポテンシャルを最大限発揮できる地域づくりを推進
- 各地域同士の枠を超えて、ボーダーレスな視点で広域的な施策を展開

伊豆半島地域

東部地域

中部地域

西部地域